

二〇一七年二月一日

朝刊のずしりと重し十二月
電飾のぐるぐる巻きとなる冬木
大根焚き袴太鼓の途切れなく
遠望の洛北はいま時雨らし

満天
たか子
なつき
せいじ

二〇一七年二月三〇日

傾ぐ舟転覆せずや海鼠突き
碧天へ千手を翳す大枯木
黄葉して村の要の大銀杏
小祠を埋むばかりに黄落す
散紅葉うち敷き眠る古墳かな

よし女
みどり
さつき
ぼんこ
明日香

二〇一七年二月二九日

すだれ吊りして干し柿の売られけり
はじめから値引き札つく年の市
禅寺の底冷えしたる廊下かな
防風林抜けて眩き沖小春

よし女
なつき
さつき
智恵子

二〇一七年二月二八日

捨舟を覆ひ尽くして黄落す

さつき

二〇一七年二月二七日

粧へる山に夕日の嬖深く
神の森はばかり猪狼藉す
無口なる婿に熱燭勧めけり
下駄箱をはみ出す靴や紅葉寺

ぼんこ
さつき
よし女
さつき

二〇一七年二月二六日

新蕎麦に満席となる里の茶屋
気配りの床暖房の句座うれし
コート脱ぎつつおしやべりす診療所
ゆつくりと回る風車や丘小春
天国の友へも賀状書きたしと
日溜まりの場所取りならん猫喧嘩
留石の奥処に燃ゆる冬紅葉

さつき
たか子
よう子
こすもす
野菊
たかを
菜々

二〇一七年二月二五日

石庭の波の箒目紅葉散る
塵ひとつなき古町の路地小春
吃水の跡みせて川涸れにけり
家寒し妻にも越せぬ敷居あり
娘の帰り遅しと仰ぐ冬の月
医学部のメインロードの銀杏散る
うそ寒し受話器を取ればすぐに切れ

宏虎
満天
せいじ
たか子
よし女
三刀
やよい

毎日句会みのる選・二〇一七年二月三日